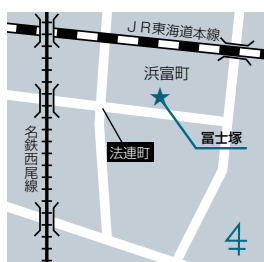




塚には常に花が供えられている



★富士塚（浜富町）



その15 富士塚



今月の案内人
上条町 渥美 精一さん

浜富町にあるコナワールドの出入口の隣に、十一面観音像が祭られた塚があります。この塚は、戦で討ち死にした武士を供養するために建てられたもので、名前を富士塚といいます。

戦国時代、三河の前線基地である安祥城をめぐる、このあたりでは、松平家・今川家と織田家の間で幾度となく激戦が繰り広げられました。その中でも、1540年に松平広忠（徳川家康の父）と織田信秀（織田信長の父）との間で起きた合戦は、敵味方併せて戦死者1000人以上ともいわれるほど激しいものでした。そして、その戦死者のほとんどは、戦のあった安祥城近郊の野原に埋葬され、その際に富士塚を含めて4基の塚が作られたのです。

この安祥城をめぐる戦いは、その後1549年に今川・松平連合軍が織田軍を打ち破るまで続き、その間に亡くなった多くの人を弔うため、ほかに多くの塚が建てられました。全部で13基となった塚を、総称して「十三塚」といいますが、現在も所在が確認できるのは、富士塚を含む九塚です。

時代は移り変わり、富士塚の周りの様子もすっかり変わってしまいました。しかし、今でも、塚には常に花が供えられ、また、毎月の追善供養も続けられています。

その様子からは、戦いから400年以上たった現代でも、この地域の人々は、戦死者の冥福を祈る気持ちを忘れずにいることが伝わってきます。